



宇宙詩 宇宙からの音響詩

足立智美と久保田晃弘による人工衛星からのサウンド・アート、実験詩の実践

プレス・リリース 2014年6月14日

ベルリンを拠点とする音響詩人、パフォーマー、作曲家である足立智美と、メディア・アーティストの久保田晃弘は、ARTSAT プロジェクトが打ち上げた芸術衛星 INVADER にプログラムコードを送り、その人工衛星が軌道上でコードを実行、合成音声による音響詩のパフォーマンスを直接地球に向けて電波で発信します。夏至である2014年6月21日より約2週間かけて何度かおこなわれ、世界各地の大都市をカバーする予定です。恐らくこれは人類による宇宙空間における最初のサウンド・アート、実験詩の実践でしょう。

参加方法

イベントを行う時刻と場所は、パフォーマンスの直前に

<http://cosmicpoem.wordpress.com>

<http://artsat.jp/>

のサイトと

twitter アカウント

<https://twitter.com/CosmicPoem>

https://twitter.com/INVADER_ARTSAT

でアナウンスします。詩は一箇所につき何度か繰り返して朗読されますが、それでも大変短く30秒以内です。

これは宇宙空間における実験です。必ずしも衛星がパフォーマンスに成功するとは限りません。その時は再度おこないません。そのため私たちの twitter アカウントをフォローすることをお勧めします。

この音響詩を聴くには3つの方法があります。

1. 衛星はFMの437.200 MHzで発信します。この周波数帯をカバーする受信機を用意し、アンテナを衛星の方角へ向けて下さい。詳しくはこのサイトを参照して下さい。

http://blog.kemushicomputer.com/2010/12/blog-post_18.html

もしこの音声を録音できたなら

<http://api.artsat.jp/report/> もしくは cosmicpoem@gmail.com

に録音を送って下さい。

この録音は <http://cosmicpoem.wordpress.com> と artsat.jp のウェブサイトから公開します。

これはある程度の知識と専門技術を持った人におすすめするアプローチです。

2. 上記のようにパフォーマンスのあと、地球上で録音された音声は <http://cosmicpoem.wordpress.com> と <http://api.artsat.jp> のウェブサイトから公開されます。これはいつでも聴くことができます。これが最も簡単な方法でしょう。

3. 空を見上げて下さい。高度約 340km を秒速 7.7km で高速移動するこの 10cm 立方の小さな衛星と宇宙空間で合成される音声を想像してみてください。想像力を用いて音声を聴いて下さい。衛星の方角を向くことができればより効果的だと思われます。もし余裕があれば、頭のなかで聴いた音を詩として書いてみたり、音声として録音して cosmicpoem@gmail.com (添付ファイルは 10MB まで) に送って下さい。このマテリアルも <http://cosmicpoem.wordpress.com> と artsat.jp のウェブサイトから公開されます。これが最もクリエイティブな方法です

詩について

この詩は衛星に搭載された音声合成チップのメモリの制約 (128 バイト) のため大変短いものですが、さまざまな文化的な参照を含んでいます。まずこれは音響詩と呼ばれる言語的な意味を持たない詩です。音響詩のアイデアは 1910-20 年代のダダイズムに由来します。ダダイストたちは言語の意味を廃棄し、個々の言語の限界を超えて普遍的な言語に到達しようとしてしました。音響詩は実験的な詩だけではなく、サウンド・アートやノイズ・ミュージックへの扉も開けました。宇宙空間における普遍言語の先駆としてこれ以上のものはないでしょう。この詩には、ベルリン・ダダの中心人物であったラウル・ハウスマンの《ポスター詩》からの直接の引用があります。この《ポスター詩》はクルト・シュヴィッターズの記念碑的大作音響詩である《ウアソナタ》の元になったことでも知られています。

また宇宙詩の一部は日本人の作家である稲垣足穂からの影響を受けています。彼の 1910-20 年代の小説では飛行と天文学に対する想像力に焦点があてられています。

この詩は宇宙空間での詩にふさわしく、1910-20 年代のコスモポリタニズムに対するオマージュとなっています。しかしながら同時に日本の伝統的な短歌に類似した形式を採用しています。なぜならこの形式が短いコードに適していることと、衛星に搭載された音声合成チップが日本語の音声構造に特化しているからです。その基本構造の中に別の一節が挿入されています。この部分はハウスマンの詩に対して直接の関係を持っているだけでなく、1957 年 11 月 3 日にソヴィエトのスプートニク 2 号に乗って軌道上にて初めて音声を発した地球上の動物と考えられる犬のライカに対する哀歌でもあります。ライカは高温のため恐らく打ち上げ後数時間で死亡したと考えられています。

この詩は衛星に搭載されたコンピュータや音声合成チップのためのコードとして書かれています。コンピュータはコードをその都度実行し、個々のパフォーマンスは毎回一部異なったものになります。この点において、これは人間によるものと同等なパフォーマンスとみなすことができます。

恐らくこの宇宙詩は宇宙空間における人類による最初の実験詩、サウンド・アートの実践でしょう。しかしもしかしたら 2 回目かもしれません。ルシア・パメラが本当に 1969 年に月面上で《Into Outer Space With Lucia Pamela》のレコーディングに成功していたならばですが。

インヴェーダーについて

2014年2月28日に打ち上げられた世界初の芸術衛星「ARTSAT1: INVADER」は、一辺が10cm立方、重量約1.8kgの超小型衛星です。ARTSATプロジェクトでは、芸術作品に利用することを主目的とした世界初の芸術衛星の運用を行なっています。衛星は高度約378kmで放出され、その後しだいに高度を低下していき、7月中旬には大気圏に再突入して燃え尽きる予定です。

衛星の現在地はここで知ることができます。

<http://artsat.jp/invader>

ARTSAT プロジェクト

<http://artsat.jp/>

アーティストについて

足立智美

パフォーマー/作曲家/音響詩人。声、各種センサー、コンピュータ、自作楽器によるソロ演奏を始め幅広い領域で活動し、ヤープ・ブロンク、ニコラス・コリンズ、坂田明、ジェニファー・ウォルシュ、アネット・クレブス、リチャード・バレット、M.C.シュミット（マトモス）、高橋悠治、一柳慧、飯村隆彦、伊藤キム、猫ひろしらと共演。インスタレーション作家、映像作家としてもキャリアがあり、非音楽家との大規模なアンサンブルのプロジェクトもおこなう。訓練されていない声のための多くの作品や、特異な記譜法を用いた作品を作曲している。世界各地のオルタナティブ・スペースの他、テート・モダン、ポンピドゥー・センター、ベルリン芸術アカデミー、ウォーカー・アート・センターなどで公演、2012年にはベルリン・メルツ・ムジーク現代音楽祭で個展を開催。詩人としてもベルリン・ポエジー・フェスティヴァル、ルイジアナ文学祭などに招聘されている。また2007年にサントリー・サマー・フェスティヴァルでジョン・ケージの《ユーロペラ5》の日本初演の演出をてがける。ACCの助成により2009-2010年ニューヨーク滞在、DAADより2012年ベルリン滞在作曲家としてドイツに招聘。

<http://www.adachitomomi.com>

久保田晃弘

アーティスト/デザイナー/研究者。多摩美術大学情報デザイン学科教授/宇宙科学研究所学際科学研究系客員教授。東京大学大学院工学系研究科船舶工学専攻博士課程修了・工学博士。非線形数値流体力学、人工物工学(設計科学)に関する研究を経て、1998年から多摩美術大学教授。現在はさまざまな領域を横断・結合するハイブリッドな創作の世界を開拓中。特に2010年からは、多摩美術大学と東京大学とのコラボレーションによる「ARTSAT：衛星芸術プロジェクト」を開始。芸術目的の衛星や宇宙機を制作することを通じて、宇宙×芸術、科学技術×芸術の新たな可能性を探求している。

<http://hemokosa.com>

プロジェクトウェブサイト

<http://cosmicpoem.wordpress.com>

facebook イベント <https://www.facebook.com/events/1450646185187636/>

問い合わせメールアドレス

cosmicpoem@gmail.com

